

会 議 録

<開催日>平成 20 年 5 月 19 日(月)
 <時 間>10:00~12:15
 <場 所>岸和田市職員会館 2 階大会議室

報告者

松 阪

<名 称>平成 20 年度 第 1 回岸和田市協働のまちづくり推進委員会

<出席者> ○は出席、■は欠席

松端	望月	室田	米川	深野	中野	稲富	中川	和田	上野	泉原	西川	谷川	荻野	白木	大多
○	○	○	○	○	○	○	○	○	■	○	○	■	○	○	○

事務局)西川企画課長、梶野主幹、松阪、陣川

<議 題>

- 1、委嘱状の交付
- 2、本市での協働推進の取組みについて
- 3、今後の取組みについて
- 4、その他

<概 要>

1、委嘱状の交付

- 委嘱状の交付後、市長挨拶
- ・ 本市ではだんじり祭りにも象徴されるように、地元町会を中心に古くからまちづくりが行われてきた。潜在的な自治力があるからと強く感じている。
- ・ さらに阪神大震災以降、ボランティア、NPOといった市民活動も盛んになりつつある。
- ・ 自治力を更に高め、「岸和田に住んで良かった」と思ってもらえるまちづくりを進めることが必要であり、そのためには市民と行政による協働は必要不可欠である。
- ・ この委員会では、市民と行政の協働を進めるにあたっての仕組みづくり、また本市にこういった制度があれば、岸和田の市民活動が充実するのかを、実際に市民活動に取り組んでいる方から意見をお伺いし、実現したいと考えている。2年ではあるが、何卒よろしくお願いしたい。
- 委員の自己紹介
- 会長、副会長の選出。委員の互選により、以下のとおり選出。

会 長	松端 克文 氏
副会長	望月 満慶 氏、室田 光重 氏

2、本市での協働推進の取組みについて

- 公民協働推進の指針について
- ・ 本市においては第 3 次岸和田市総合計画において「市民自治都市」の実現を目指すため、協働の手法が挙げられている。
- ・ 公民協働推進の指針は、平成 17 年 6 月に策定されたが、策定にあたりこれまでの取組みを踏まえ、今後の協働の考え方、市としての方向性、そのための仕組み作りなどを記述されている。
- 協働推進システム等岸和田市の取組みについて
- ・ 指針を受けて、本市では庁内の推進体制の構築、各種研修会の開催等を通じ、協働意識の醸成を図ってきた。
- ・ 指針に書かれている各種施策(協働推進システム)については、毎年度進捗状況を調査・公表している。

- ・ 本市に事務所を有するNPO法人も、現在 43 団体あるが、全ての団体を把握できていない状況である。それぞれの団体間でもネットワークを広げていくことも、今後の課題である。
- 本委員会の役割等
- ・ 指針については、職員が検討したものである。協働推進システムについても職員が検討した内容となっているため、実際のシステム導入にあたっては、市民の視点も必要となってくる。
- ・ 本委員会の役割は、岸和田市の協働を推進するにあたって必要と思われる施策の提案、指針に記述されている協働推進システムについても、市民の視点で様々な意見をいただき、より良いシステムを創り出すことが役割となっている。
- ・ 指針に書かれていない施策についても、様々な情報を提供していただき、岸和田市にとってより良い市民と行政の協働のあり方を検討していきたい。

【意見交換（要点筆記）】

白木委員：協働推進システムの達成目標が到来しているものの中でも、導入出来ていないものもある。中でも「協働事業の審査・評価制度の確立」はどのように評価するのかといった点も含めて検討すべきである。また指針についても策定後、数年経過しているので社会情勢に適合した内容にすべきであり、その点で改訂も必要ではないか。

事務局：評価制度については導入すべきであるが、至っていないのが現状である。ただ今年度は事業者バンクを導入する中で、協働事業の評価を行う予定をしている。指針の改定については、十分に議論した上で市の考え方、方向性を示しているため、直ぐに改訂とは現時点では考えていない。

中野委員：協働事業の評価については、“Plan Do Check Action”の循環的な繰り返しの中で、Do（実行）は、色々な立場の方が参加しているこの委員会で何か取り組めるのではないかと。動かなければCheckは出来ない。また評価は、行政だけで評価するのではなく、市民団体の視点からも評価が必要であり、市民と行政が一緒に行うべきである。この委員会が主体となって、具体的なアクションを起す、動きながら実践することが必要である。岸和田市内には40を超えるNPO法人があり、それぞれミッション（目的）を持って活動している。そういった団体が情報発信できる場が必要である。

望月委員：以前、市民と行政による「まちづくり・ざいせい岸和田委員会」の取組みがあったが、そういった形で市民と行政職員が一緒になって議論するような取組みも良いのではないかと。また先程の実行の観点から言えば、「まち・ざい」で出された提言を実行するののも一つの案である。また本市においては、公民館をまちづくりの拠点として、整備していくことが求められていると思う。公民館を地域の人が集まる拠点にすべきである。地域の活動に職員が一緒になって参加することが必要である。一緒にやることからまちづくりが始まると強く思う。“まずやってもらう”ことが大事である。

松端会長：本市では協働の取組みの実績はあるが、上手に発信できていないのが問題である。具体的なアクション（まちづくりフォーラムなど）を仕掛けるのも二期目となるこの委員会で検討してはどうか。この点については次回以降の推進委員会で検討していくこととする。

3、今後の取組みについて

- 岸和田市協働のまちづくり事業者バンクについて
- ・ この制度については、昨年から検討してきた制度であり、6月1日より実施する。

- ・ まちづくりに参画したい事業者と市民活動団体を結び付ける制度である。
- ・ 現在、登録事業者を募集しており、社会貢献等に興味・関心のある事業者を知っていれば情報提供いただきたい。
- 市民活動支援に向けた取組みについて
- ・ 本委員会では、先程説明したように市民活動を支援するため、新たな仕組みづくり、制度を検討する場であり、様々な意見をいただきながら、制度を考えていく。
- ・ 特に今年度は以下の2点について検討したい。
 - 市民活動サポートセンターの検討（機能、運営体制など）
 - 市民活動補助金制度（新たな市民活動を支援する補助金制度）

【グループワーク（3班）】

- テーマ：市民活動を促進するにあたっての制度（こういった制度があれば良いか）
 - 協働のまちづくり推進委員会で取り組みたいこと、検討したいこと
- 出された意見・メンバーは以下のとおり

A班：室田、中野、和田、大多
・ 目に見える活動、居場所（拠点）必要（NPO センター等） ・ 推進委員会として PR、動き出す時期ではないか（フォーラム、まちづくり交流会） ・ 情報の発信・提供・共有が大切 ・ もう一度情報を集め、集めっぱなしにせずに、もう一步動いた活動をする（企業とのコラボなど）
B班：望月、泉原、西川、白木
・ 広報活動充実する ・ FM きしわだ準備中 ・ テレ岸双方向会議 ・ 掲示板などで意見徴集
C班：米川、深野、稲富、中川、荻野
・ 今後の取組み（何をしたいか） ・ アクション、イベント・・・「協働」をキーワードに ・ 市民フェスティバルに活かされないか ・ 評価制度とは？ ・ 市民活動サポートセンターとは？ - 場所は？ - 必要なのか、要らないのか？ - ボランティアセンターとの関わりは？ボランティアサロン2ヶ月に一度。 - 情報発信・交換 - 広い意味ではボランティアの全てがわかる（市民として色々な情報がわかる）拠点が必要ではないか ・ 国際交流・・・日本語サロン（夜に開講。職員会館ほか5ヶ所で） - 窓口はマドカホール。外国人も安心して暮らせるところ - 福祉センターの場所は全てのことに関わる場所として利便性の高い場所

にある。

- ・ 協働について・・・フィードバックしにくい。

【まとめ】

松端会長：グループワークでは様々な意見、取組みの案が示された。本日出された意見を今回の委員会で検討し、実践できるような取組みを行っていきたい。

4、その他

- 情報提供
- ・ 泉原氏のテレビ出演（TBS「エコだね」環境の取組み）。詳しくは下記ホームページに掲載。

http://www.tbs.co.jp/ecodane/bn_20080514.html

- 次回以降の日程

8月11日（月）10：00～12：00

11月10日（月）10：00～12：00

2月 9日（月）10：00～12：00

開催場所は未定（事前に案内します）

